

育成すべき資質・能力の 三つの柱	大泉の 自主・自律・創造	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
知識・技能 何を理解しているか 何ができるか	興味関心をもち、 課題を発見する力	技術において興味関心をもつことができない。	技術における限られたことには興味関心をもつことができる。	技術において広く興味関心をもち、課題を発見することができる。	技術における幅広い分野に興味関心をもち、意欲的に課題を発見することができる。	技術における幅広い分野に興味関心をもち、課題の本質を発見し続けることができる。
	自分の可能性を信じ、 やり抜く力	技術の作業における自分の可能性を信じることが出来ず、取り組むことができない。	技術の作業における自分の可能性を信じ、取り組むことができる。	技術の作業における自分の可能性を信じ、最後までやり抜くことができる。	技術の作業における自分の可能性を信じ、計画的にやり抜くことができる。	技術の作業におけるどんなときも自分の可能性を信じ、何事にも計画的にやり抜くことができる。
	挑戦する力	何事にも挑戦することができない。	技術の与えられた課題に対して、挑戦しようとすることができる。	技術の与えられた課題に対して、前向きに挑戦することができる。	技術において自ら課題を発見し、挑戦することができる。	技術において自ら発見した複数の課題に対して、挑戦し続けることができる。
思考力・判断力・表現力等 理解していること・できることを どう使うか	解決に向けて 論理的に思考する力	技術の製作における課題の解決に向けて、自分で考えることができない。	技術の製作において自分で考えることができる。	技術の製作において筋道を立てて思考できる。	技術の製作における客観的根拠を示して筋道を立てて思考できる。	技術の制作において客観的根拠を示しつつ多角的な視点で筋道を立てて思考できる。
	自他の違いを認め、 思いやる力	技術における自分の考え方や生き方を認めることができない。	技術における自分の考え方や生き方を認めることができる。	技術において他者の考え方や生き方を認めることができる。	技術において自他の考え方や生き方を尊重することができる。	技術における多様な社会のあるべき姿について、考えることができる。
	学びを実践に移す力	技術において学びを他者に伝えることができない。	技術において学びを他者に伝えることができる。	技術において学びを他者に伝えて、理解してもらうことができる。	技術において学びを実生活や実社会で生かす方法を考えることができる。	技術において学びを生かして実生活や実社会に向けてアクションを起こすことができる。
学びに向かう力・人間性等 どのように社会・世界と関わり、 よりよい人生を送るか	自ら学びを継続する力	技術において意欲的に学ぼうとすることができない。	技術において意欲的に学ぶことができる。	技術において意欲的に学び、その学びを継続することができる。	技術においてどのようなことに対しても意欲的に学び、その学びを継続することができる。	技術において自身の意欲的な学びを通して、集団に良い影響を与えることができる。
	多様な人々と協働する力	技術の作業において多様な人々と行動を共にすることができない。	技術の作業において多様な人々と行動を共にすることができる。	技術の作業において多様な人々と協力しながら、行動をとることもすることができる。	技術の作業において多様な人々と協力しながら、課題解決をすることができる。	技術の作業における自己を含めた多様な人々の中心になって、課題解決をすることができる。
	自己実現に向かう力	技術において自分の作りたい姿を思い描くことができない。	技術において自分の作りたい姿を思い描くことができる。	技術において自分の作りたい姿を具体的に思い描くことができる。	技術において自分の作りたい姿に向けて、必要なことを理解することができる。	技術において自分の作りたい姿の実現に向けて、努力を重ねることができる。